

研究者ら、強毒性鳥インフルエンザ研究の一時中止に合意（1月20日）

強毒性鳥インフルエンザ「H5N1」に関する研究を行う研究者 39 人は、テロリストにデータが渡ることを防ぐ目的から、60 日間に亘る本研究の自発的中止に関する合意文書への署名を行った。この背景には、2011 年 12 月、オランダのエラスムス大学附属病院のロン・フォウチャー氏 (Ron Fouchier) を中心とするグループと、ウィスコンシン大学 (University of Wisconsin、ウィスコンシン州) の河岡義裕氏を中心とする 2 グループが H5N1 の操作に成功したことを受け、これがバイオテロに用いられる可能性があるとして国立衛生研究所 (National Institutes of Health : NIH) のバイオセキュリティに関する国家科学諮問委員会 (National Science Advisory Board for Biosecurity : NSABB) が指摘し、研究結果の詳細を科学誌に掲載しないよう求めていたことがある。NSABB の要求に対して科学者コミュニティから反発の声が多く挙がっていたが、今回の研究者側からの自発的な研究一時停止措置は、H5N1 研究がもたらす影響を政府や学会が科学的、政治的、倫理的観点から検討するための時間を与えることを目的としている。

なお、本合意文書は

<<http://www.sciencemag.org/site/feature/data/hottopics/biosecurity/Fouchier.Express.pdf>>  
からダウンロード可能。

Time, *Scientists Agree to Halt Work on Dangerous Bird Flu Strain*

<http://healthland.time.com/2012/01/20/scientists-agree-to-halt-work-on-dangerous-h5n1-bird-flu-strain/>